

樹

緑の 相談所だよ

花

2005・7
創刊号

(財)兵庫県園芸・公園協会 緑の相談所

花と緑に関する施策について

(財)兵庫県園芸・公園協会理事 松浦 伸吾

近年、やすらぎや潤いのある生活を求める県民のニーズが高まっていますが、これを生活の中に花や緑を取り入れることによって満たそうとする人々が増えてきています。

平成14年度から始まった「全県花いっぱい運動」との関連で、県下各地の花を活かしたまちづくりの状況を見て回りましたが、各地の住民の皆様が、夫々の地域らしさを活かしつつ、様々な主体の参画と協働により自立、かつ、継続的に花を活かしたまちづくりに熱心に取り組んでおられる姿を拝見し、感動するとともに、県民運動として定着しつつあるな、という実感を新たにしました。

昨年度末、県では「ひょうご花と緑の懇話会」(熊谷洋一座長。各界の有識者で構成)から、「参画と協働による“花と緑あふれる美しい県土づくり”をめざして」という報告・提言を受けました。同報告の中で、「……今日、花や緑を取り入れた生活へのニーズが高まっており、花や緑を植え育てる県民の活動は、個人の庭づくりから、沿道の花かざり、空き地の緑化・美化、オープンガーデンへと広がってきている。県ではこうした取り組みを支援し、県民とともに“花と緑あふれる美しい県土づくり”に取り組んでいるが、関連施策は多岐にわたり、担当する部局も広範囲にまたがっている。こうしたことから、花と緑に関する施策の総合的な推進を図るため、平成15年度に「ひょうご花と緑の総合推進検討委員会」において、花と緑に関する県民運動の支援とそれを支える景観園芸の振興を中心に11の推進方策を示した。そこで、この推進

方策を実践に結びつけるため、「ひょうご花と緑の懇話会」において、平成17年度以降、早期・重点的に取り組む課題や具体的な施策・事業について検討し、提言を行う。」と同懇話会の「趣旨」について説明し、1 県民が気軽に活動に取り組める体制をつくる。2 自立・継続した活動展開を図る。3 都市緑化・被災地緑化を進める。4 景観園芸の振興を図る。という4つの推進方向に沿って11の具体的方策を提言しています。また、各部局(外郭団体を含む)にわたる80数項目にわたる施策を整理し体系づけています。

今後、県ではこの懇話会提言を受けて、「花と緑あふれる美しい県土づくり」を進めていかれるのでしょうか。

翻って当園芸・公園協会の事業をみると、上の体系表の80数項目の施策のうち、十分の一位が当協会が直接実施する事業となっています。現状では事業計画で決められた事業を真しに最大の成果を求めて実行していく外ないのですが、「各部局において多岐にわたる施策が講じられていることから、県民や民間活動団体からは、わかりにくい状況となっている側面がある」という花と緑に関する施策の総合推進の要請にも耳を傾けつつ、今後の事業内容を検証し、改善していくことが必要です。

「緑の相談所」では、都市緑化意識の高揚及び植栽知識の普及を図るため、花と緑の教室や相談業務などの諸事業を実施していますが、上のような動きにも注意を払いつつ、県民のために最も有益な事業のあり方は何か、を常に考えていく必要があると思っています。



兵庫方式による里山林管理

兵庫県立大学教授 服部 保

里山とは燃料や肥料の生産を目的とする薪炭林を意味します。兵庫県ではコナラ、アベマキ、クヌギなどの夏緑樹（落葉広葉樹）やアカマツの優占する里山が広く分布しています。その里山は昭和30年代以降の燃料革命によって薪や炭が利用されなくなり放置されるようになりました。そのため利用されていた当時の本当の里山景観は消失し、常緑広葉樹、ツル植物、ササ類、コシダ・ウラボシの繁茂した暗い樹林へと変化しています。燃料や肥料生産の機能を失った里山ですが、里山の機能は生産機能だけではありません。二酸化炭素の固定、水源涵養、生物多様性保全などの環境機能や環境学習、レクリエーション、地域景観の保全などの文化機能を里山は有しており、それらの機能は以前よりも私達の生活に大きく寄与しています。里山は私達にとって大切な財産といえるでしょう。

私達の生活にたくさんの恵みを与えている里山をさらに放置し続けると、どのような状態になるのでしょうか。常緑広葉樹の生育がさらに増大し、ツル植物による林冠の破壊やササ類の被覆による林床の裸地化などが進行し、最終的には照葉樹林（常緑広葉樹林）へと遷移します。この遷移の過程で現在里山に生育しているツツジ類、ガマズミ類、ムラサキシキブ、カマツカ、スノキ、ナツハゼなどの低木類やエビネ、シュンラン、シハイスマレ、カンアオイ類、チゴユリなどの草本類が消滅します。成立する照葉樹林はもともと里山に生育していたアカラシ、ヒサカキ、ネズミモチ、ソヨゴ、ヒイラギなどの限られた常緑広葉樹より構成されるので非常に単純な種組成しか持てません。景観

も四季の変化に富んだ落葉樹林から変化の少ない常緑樹林へと変わります。

それでは里山をどのようにすれば良いのでしょうか。里山管理の全国の取り組みを見ていると昔の里山、利用していた当時の里山を意識した里山管理が多いようです。兵庫県では昔の里山に戻すのではなく、常緑広葉樹、ツル植物、ササ類を伐採して照葉樹林への遷移を阻止し、生物多様性の高いブナ林のような落葉高木林（落葉の大径木林）を目標とする里山林整備が10年ほど前より進められています。コナラ、アベマキ、クヌギなどの高木林はかつて里山には存在していませんでした。このような高木林を私達は環境高林、文化高林とよんでいます。里山林整備事業、里山林再生事業とよばれるこれらの事業は県下の60ヶ所以上で進められ、美しく、多様性の高くなった里山が市民に活用されています。このような生物多様性の高い環境高林を目指した里山管理の方法は兵庫方式とよばれています。

さて、里山林の管理は公的な管理だけでは不十分です。私達市民も積極的に参加して進めていく必要があります。市民による里山管理の方法が兵庫県三田市の「森の学校」で考案されました。三田方式とよばれるこの市民参加型里山管理の方法は、目標林は兵庫方式に基づいていますが、管理主体は市民であり、効率を求めず、文化活動としての里山の勉強や美しい里山管理を目指しています。

里山の現状、課題、目標林の設定、管理方法、兵庫方式・三田方式の里山管理などについては今年の3月に印刷されたばかりの兵庫県阪神北県民局室塚農林振興事務所発行の「北摂地域の里山林再生マニュアル」を参照して下さい。

明石公園の巨木・古木

明石公園には300種以上の木本植物があり、この内、地表から高さ1.5mの幹周（胸高周囲）が1.5m以上の樹木は、約30種270本あります。戦災をくぐり、周辺がすっかり都市化した環境の中で、今を生きるこれらの大樹、古木が刻んだ時や樹々の生命力に想いを馳せながら散策すれば、これまでとは違った公園の魅力を見出されることでしょう。

古木の中から、ひとつふたつ紹介しましょう。

クスノキ（楠）

クスノキ科、クスノキ属の常緑広葉樹。別名クス。本州、四国、九州に分布する。兵庫県の県木。

明石公園には樹齢50年以上のクスノキだけで60本以上生育しており、他の樹種に比べて大木が多い。この内、公園の正面入口から入った右側、武蔵庭園内にあるクスノキは、樹高18.0m、胸高周囲3.6m、推定樹齢は118年で、公園内のクスノキでは一番の古木である。

国内最大のものは鹿児島県始良郡蒲生町の蒲生クスノキ

で、樹高30m、推定樹齢千数百年で、国の特別天然記念物となっている。兵庫県内には4本の天然記念物があり、その内最大のもは、神戸市灘区の春日神社の神前大クスである。

ラクウショウ（落羽松）

原生地は北アメリカ。スギ科、ヌマスギ属の落葉高木で、別名ヌマスギ。現地では樹高50m、胸高周囲9m以上に達するものがあり、日本には明治時代に入ってきた。



ラクウショウ

明石公園には明石城の坤櫓（ひつじさるやぐら）の真下であり、樹高21.0m、胸高周囲3.1m、推定樹齢100～110年で、全国的にも評価が高い古木である。

この樹は、明治43年に、当時園内にあった兵庫県農学校（現県立農業高等学校）の第1期生が、卒業記念に植樹したものです。

(3) 緑の相談所だよ

主な巨樹・古木（推定樹齢110年以上）

樹名	H	C	樹齢	所在地
アキニレ	14.6	2.7	158	西芝生広場
アベマキ	19.0	3.0	115	帯廓東
アラカシ	12.0	2.0	117	桜堀北側
ウバメガシ	9.0	2.4	127	西堀北
エノキ	22.0	3.7	157	子供の村
クスノキ	18.0	3.6	118	武蔵庭園内
クロガネモチ	12.0	2.2	130	剛の池南西
コナラ	15.0	1.6	120	子供の村西
シナノガキ	11.0	1.9	116	帯廓中央
タブノキ	16.0	2.0	149	剛の池北東
ヤマモモ	9.2	3.4	131	巽橋直近
ラクウショウ	21.0	3.1	100~110	坤橋下

平成15年度調査 兵庫県樹木学会

1 同一樹種が複数ある場合は、最高推定樹齢(年)を採用
 2 H:樹高、C:胸高周囲、単位はm(端数処理)

この他、樹齢100年前後の樹木として、イチイガシ、イヌエンジュ、クロマツ、キリ、ハゼノキ、モチノキ等があります。

- ① アキニレ
- ② アベマキ
- ③ アラカシ
- ④ ウバメガシ
- ⑤ エノキ
- ⑥ クスノキ
- ⑦ クロガネモチ
- ⑧ コナラ
- ⑨ シナノガキ
- ⑩ タブノキ
- ⑪ ヤマモモ
- ⑫ ラクウショウ



古木位置図

明石公園平面図

ハスとスイレン

夏を代表する美しい花、ハスとスイレンを取り上げました。これらは水辺の植物として、古くから日本人になじみの深いものですが、知っているようで意外と答えられないことがあります。今回は、その違い等について少し書いてみました。

- ①ハスとスイレンの違いを知っていますか
- ②大賀ハスをご存じですか
- ③スイレンをひつじ草と通称していますが、なぜでしょう。

いかがですか。

①について

	ハス	スイレン
科・属	ハス科・ハス属 多年生水生植物	スイレン科・スイレン属 多年生水生植物
葉の形状	浮き葉と立ち葉	浮き葉のみ
花の位置	水面より高く咲く	水面に浮いて咲く
葉の表面	撥水性あり(水玉をつくる)	撥水性なし
根の形状	レンコン(地下茎)ができる	通常の根

*一般的には上記の通りですが、品種によって異なります。

②について

昭和26年に、千葉県の検見川遺跡から、東大教授の大賀博士がハスの種子を発見しました。その場所が2000年以上も前(縄文時代とも言われている)の地層と推定されたこと、採取した種子(3粒)のひとつが開花したということで、世界中を驚かせマスコミにも大きく取り上げられました。種子が長期間保存される上での好条件が重なって、この生

命の神秘に遭遇できたようです。その後、このハスは日本の各地で栽培され「大賀ハス」と名付けられました。

③について

スイレンは多年生水生植物のひとつで日本には原種が1種あり、和名「ヒツジ草」と呼ばれ日本列島各地に自生しています。我々が、日頃目にする色鮮やかなものは園芸品種で、明治から大正時代に日本に入ってきたものです。このヒツジ草の名前は、未(ひつじ)の刻(午後2時頃)に花が咲くことからつけられましたが、生育地の条件により開花時間は異なります。

④オマケです

・ハスの根がいわゆる「レンコン」ですが、観賞用の園芸種は花は美しいものの、食用になるレンコンはあまり期待できないそうです。

・スイレンの絵で有名なフランス印象派の巨匠モネは、40才頃に引越した家の前に大きい池を作りましたが、大の日本好きであったモネの想像を反映したものとされています。その池で観賞用に育てられていたスイレンは、60才頃から

モネの画題として精力的に画かれ、その数は250点以上になるようです。もちろん、あの有名な1枚も含まれています。



スイレン

Q & A

園芸研究家 安水 賢吾

1. 庭植えツツジの開花数の減少

Q これまで花がよく咲いていた庭植えヒラドツツジが、今年は花が目立って少なくなりました。その原因と対策を教えてください。

A 庭植えツツジ類の花つきが悪い主な原因は、①剪定・刈り込み時期が遅い、深く刈り込み過ぎる、②新梢の成長が旺盛過ぎる、③最近特に多いベニモンアオリンガの幼虫の新梢・蕾の食害によるもの等です。

①ヒラドツツジは6月中旬までに剪定した後に伸びた新梢の先端に、夏に花芽ができます。しかし花芽分化期までに新梢が十分發育しないと花芽がつきにくいので、花芽分化後の剪定は花芽を切り取ることになり、6月下旬以降の剪定は行いません。また、古枝の部分で切っても不定芽が発生しやすいですが、深く切り込むと花つきが悪くなります。

②冬には花芽ができていたのに、春になって開花しなかった原因は、新梢の成長が旺盛過ぎて、日当たり・風通しが悪くなり、花芽の発達を抑えられたり、灰色カビ病等が発生したためと思われます。したがって、寒肥等は控えて茎葉の繁茂を押さえ、秋から開花までに突出した枝は刈り取り、樹面を揃えるようにします。

③これまで花がよく咲いていたとのことですので、①・②は適切に行われていたと考えられることから、この場合の原因はベニモンアオリンガによる被害と思われます。

ベニモンアオリンガによる被害症状は新芽が伸びる頃、新芽が幼虫にかじられ、赤く枯れて芯止まりになり、その後に腋芽が伸び始めても食害されて花芽が少なくなります。また、8月以降蕾ができる頃、蕾にとりつき中に進入して食害するため、蕾は赤く枯れて翌年の開花数は極端に減ります。

ベニモンアオリンガは5～10月に連続して年間3～4回発生し、冬は枝や葉裏にまゆを作って、さなぎの形で越冬します。幼虫は小さく見つけるのが困難です。したがって、防除は、発生期間中、10日～1週間おきに、スミチオン・マラソン・オルトラン・カルホス等を散布し、幼虫の駆除に努めます。薬剤散布は同時期に発生するゲンバイムシの防除にも有効です。



ツツジの新芽の被害

2. ジャーマンアイリスの株分け・植え付け法

Q 植え付けてから3年たった株が混み合っ、花つきが悪くなったので、株分けしたいと思いますが、その方法を教えてください。

A ジャーマンアイリスは夏の高温・多湿を嫌い、長年植え放しにすると、この時期に株が混み合っ弱り、花つきが悪くなるとともに、致命的な軟腐病が発生し易くなるので、少なくとも2～3年に1回掘り上げて株分けして植え替えます。時期は、梅雨どきや秋の長雨時期を避けて、花が終わった直後か9～10月が適期です。掘り上げた株は、古い根茎（親株）から分球した根茎（子株）の根を1球ずつ切り離し、葉を1/2～1/3残して扇形に切り、5日間ほど陰干してから植付けます。過湿・過肥や酸性土を嫌うので、植付け場所は、水はけのよい新しい場所を選び、苦土石灰3握り/m²ほどまいて土を中和しておきます。元肥を施す必要はありません。

子株は30cm間隔に、根茎が半分程度土に埋まり、根茎と新芽の境目が地中にあるように植え付けます。植え付け後は原則として水は与えません。



株を掘り上げ、古い根茎から今年伸びた根茎(子株)を切り取る

古い根茎(親茎)は処分する

3. パンジーの播種時期と育苗法

Q 夏にパンジーの種をまいても、発芽がよくなく、育苗も難しいといわれていますが、どのように管理すればよろしいか。

A 一般家庭でのパンジーの種まき時期は8月中旬～9月中旬ですが、年内に咲かせようとするれば、極早生品種を使用して、8月下旬までに種まきします。しかしパンジーの発芽適温は15～20℃ですので、この時期は高温のため発芽率が悪くなったり、立枯病が発生しやすくなります。

家庭で少量育苗する場合、素焼きの平鉢に用土（小粒赤玉土・バーミキュライト・ピートモス単用、または小粒赤玉土に2者のいずれかを等量混合）を8分めほど入れ、1cm間隔に1粒ずつまき、軽く覆土し、ベンレート1000倍液をかけて、種子・用土の消毒をします。発芽まで土表面が乾かないよう腰水法により、雨の当たらない涼しい日陰で管理します。発芽後は朝夕は日なた、日中は日陰で乾かし気味に管理し、10日に1回ほど1000倍液肥を与えます。本葉2～3枚頃2号ポット、4～5枚頃3号ポットにそれぞれ移植し、7～8枚で定植します。用土は小粒赤玉土6＋腐葉土4の配合土または市販の用土を用い、緩効性化成肥料3～5g/土を混ぜておきます。

4. カキの落果の原因と防止法

Q 庭植の甘柿がなり始めたのに、落果して、十分に収穫できません。実止まりをよくするにはどうすればよろしいか。

A 6月中・下旬までの初期の落果は「生理的落果」で、その原因は、過剰な着蕾・着果、樹勢が強過ぎまたは弱過ぎることによる果実の栄養不良、および不完全受精（優良な甘柿品種は雌花だけを持って、雄花がない品種が多い）によるものです。その対策として、葉数5～6枚に1蕾（果）を目安に摘蕾・摘果を行う、剪定・施肥など基本的な栽培管理技術を習得する、付近に雄花もつ品種がない場合は禪寺丸等の受粉樹を植えるか、花粉を入手して人工受精を行う、等が必要となります。

夏以降、後期の落果は「ヘタムシ（カキミガ）」による被害です。ヘタムシは年2回6月と8月に成虫が発生し、枝の芽の部分に産卵します。ふ化幼虫ははじめ芽に食い入り、後に果実に移ります。いったん果実に食い入った幼虫の防除は困難ですので、生理的落果が終わった後、特に7月下旬～8月上旬を重点に、スミチオン・オルトラン等の1000倍液を、5～7日おきに2～3回ぐらい散布して防除します。

5. ハイビスカスの花が咲かなくなった

Q 春にたくさん花をつけたハイビスカスの鉢植えを購入したのですが、夏になったら花が少なくなりました。なぜでしょう。

A 市販されているハイビスカスは亜熱帯産の、大輪で花色が豊富なハワイアン系品種が多く、日光を好み、春・秋に日当たりのよい場所で肥培管理をすれば、枝の先端等から新芽が伸びて各節に蕾が付き、秋遅くまで開花します。しかし、日本の夏は高温・多湿に過ぎるため新芽の伸長が鈍り、開花数が少なくなり、大輪種等は花も小さくなります。したがって、5～10月の生育期には、緩効性肥料を月1回置き肥（固形油粕6号鉢に3～4個など）や微粉ハイポネックスを月1～2回与えて、新芽の伸長を促すとともに、夏は風通しのよい涼しい場所で管理する等の対策が必要です。

また、ハイビスカスは生育が旺盛なため根詰まりしやすく、根詰まりすると新芽が伸びず、落葉・落蕾の原因ともなるので、芽の出る頃（根詰まりしている株は夏でも）に、根鉢をほぐして古根を除き、一回り大きな鉢に植え替えます。用土は赤玉土5＋腐葉土3＋小粒日向土2割の混合土を用い、用土1ℓ当たりマグアンプK等の緩効性肥料を5g程度混ぜておきます。

(写真・イラストの出典：NHK趣味の園芸)

花ごよみ

		7月	8月	9月
フラワーセンター	ナツツバキ	●●●●●		
	ノウゼンカズラ	●●●●●	●●●●●	
	メランボジウム	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ペンタス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ペゴニア	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	インパチェンス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	スイレン	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ハナスベリヒユ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	コリウス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ケイトウ・ハゲイトウ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	プレクトランサス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ヒペリカム	●●●●●	●●●●●	
西猪名公園 甲山森林公園	リョウブ	●●●●●	●●●●●	
	ノリウツギ	●●●●●	●●●●●	
	ヤマハギ	●●●●●	●●●●●	
	ツクシハギ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ミソハギ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ハンゲショウ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	サワヒヨドリ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	アキノタムラソウ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
一庫公園	ネムノキ	●●●●●	●●●●●	
	リョウブ	●●●●●	●●●●●	
有馬富士公園	ナツスイセン	●●●●●	●●●●●	
	クレマチス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
播磨中央公園	ヘメロカリス	●●●●●		
	ハナトラノオ	●●●●●		
	タカサゴユリ	●●●●●	●●●●●	
	コバノランタナ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	パンパスグラス	●●●●●	●●●●●	●●●●●
明石公園	スイレン	●●●●●	●●●●●	●●●●●
明石西公園	ヘメロカリス	●●●●●	●●●●●	
赤穂海浜公園	アメリカデイゴ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	アメリカノウゼンカズラ	●●●●●	●●●●●	●●●●●
	ハマボウ	●●●●●	●●●●●	

ヘメロカリス



タカサゴユリ

花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、7月～9月にかけて、次の催しを計画しています。

7月		
フラワーセンター	水生植物展	7/7～8/16
	食虫植物展	7/16～8/30
明石公園	よさこい兵庫2005	7/31
8月		
舞子公園	第3回舞子公園 納涼夏まつり	8/13～8/14 (予定)
赤穂海浜公園	夏休みわくわく プレゼント抽選会	8/13～8/15
9月		
フラワーセンター	植物園ボランティア展	9/3～9/19
	植物スケッチ展	9/3～9/20
	押し花作品展	9/23～10/18
西猪名公園	ちびっこ・健康・ 西猪名まつり	9/18
明石公園	明石市民まつり	9/10
明石西公園	紙と板の飛行機教室	9月中旬

平成17年 7～9月 園芸教室のご案内

一般講座

1講座だけでも受けられます。事前申し込み必要。資料代1回100円
日程・申し込み受付開始日は変更になることがあります。

日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
7/23 土	福助菊の作り方 (内容) 福助菊展と連携した、菊の作り方の講習・福助菊苗の有償配布	原 忠敏	6/24
7/24 日	自然観察(夏) *小学生と保護者対象 (内容) 昆虫と樹種について指導員と一緒に学ぶ	西森由美子	7/17
7/31 日	ハーブ・薬草の利用法 (内容) 主なハーブ・薬草の作り方と、効能および利用法	澤田美代治	7/24
8/5 金	植物画の描き方 ※参加型とは別に材料費が必要 (内容) 植物画展と連携した、植物画の描き方の講習	岸野二三子	7/31
8/21 日	園芸クラフト作り実習 ※参加型とは別に材料費が必要 (内容) 容器・育苗資材等の竹材加工と、ペットボトル等の園芸利用実例	岸野二三子	8/5
9/4 日	山野草の寄せ植えと苔玉の作り方実習 ※参加型とは別に材料費が必要 (内容) 山野草・小花木の寄せ植えと苔玉作り実習	澤田美代治	8/21
9/16 金	雑木小品盆栽の仕立て方 (内容) 主要雑木盆栽の剪定、植え替え法等の年間管理法を解説	西岡 兼治	9/4
9/30 金	菊小品盆栽の作り方 (内容) 菊の小品盆栽の作り方と今後の管理法を説明	赤井美知夫	9/16

園芸基礎講座コース (全6回) ※6回連続受講のみ受付ます(受け付けは終了しました。)

日程	課題名・内容	講師名
7/3 日	植物の分類と生態・原産地	小山 重示
8/28 日	植物の形態・生理機能と環境	安水 賢吾
9/25 日	土の働きと地ごしらえ	安水 賢吾

専門講座実技コース (全4回) ※4回連続受講のみ受付ます(受け付けは終了しました。)

日程	課題名・内容	講師名
7/10 日	樹木の殖やし方	中井 堅 植田 吉裕

参加型講座 ※事前申し込みが必要です。参加は無料です。

日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
7/17 日	自然観察(夏) 作品展 *小学生と保護者対象 (内容) 3種別程度の樹木の葉を写実し、その作品を展示	松井 安由	7/10
9/11 日	草花観察作品展 *小学生と保護者対象 (内容) コスモスを写実して、その作品を展示	小山 重示	9/2

移動園芸教室 ※事前申し込み、参加費が必要です。

日程	課題名・内容	場所	申込開始日
8/7 日	有馬富士公園 *小学生と保護者対象 (バスで移動します)	三田市	7/1

(お知らせ)

●今年度よりシードバンクを開設しました

[しくみ] 花の好きな人であればどなたでも口座が開設できます(「めばえ通帳」をお渡します)。口座を開設した人に種子を“でたね”(貸し出し)し、花を楽しんでいただいた後、種子を収穫して“あずけたね”(預け入れ)をしてもらいます。

[実施日と場所] 原則として毎月、第2・4土曜日の13:00～15:00に明石公園緑の相談所。

●相談所図書閲覧

6月から、明石公園緑の相談所「図書室」で閲覧できます。

[実施日] 毎週水・土曜日の10:00～12:00

●草花の販売

[実施日] 原則として毎月第1、3土曜日及び翌日曜日の13:00～16:00。
祝日に実施することもあります。

創刊号 (2005年7月発行・年4回)

(財)兵庫県園芸・公園協会 緑の相談所
〒673-0847 明石市明石公園1-27
TEL/FAX. (078) 918-2405